

◎環境 ISO 学生委員会の活動レポート ②環境 ISO 学生委員会環境教育海外研修

環境教育海外研修 ドイツ・オーストリア

信州大学は、環境 ISO 学生委員のうち4名をドイツ・オーストリアへ派遣し、環境教育研修を実施しました。ウィーン天然資源大学（オーストリア・ウィーン）とリュネブルク大学（ドイツ・リュネブルク）、フライブルク市（ドイツ・フライブルク）を8泊10日の日程で研修訪問し、現地の学生とディスカッションや環境関連施設の見学をしました。



■趣旨・目的

環境に対する取組に対して、多様な視点で捉えることができる学生や信州大学環境方針にふさわしい環境マインドを持った学生を育成し、信州大学の環境活動を推進する。

■日程

2009年3月3日～3月11日

- 3/03(火) 松本→成田→フランクフルト
フランクフルト→ウィーン
- 3/04(水) ウィーン
(ウィーン天然資源大学訪問・学生との交流)
- 3/05(木) ウィーン
(ウィーン的环境関連担当者との面会)
- 3/06(金) ウィーン→フライブルク(移動)
- 3/07(土) フライブルク市内
(環境関連施設見学、環境関連の取組資料収集)
- 3/08(日) フライブルク→ハンブルク
- 3/09(月) ハンブルク→リュネブルク
(リュネブルク大学訪問・学生との交流)
→ハンブルク
- 3/10(火) ハンブルク→フランクフルト→機内泊
- 3/11(水) →成田→松本



■メンバー 5名

◎参加学生 [＊学年は参加時のもの]

- 後藤浩介 (工学部土木工学科1年)
- 森本竹洋 (工学部環境機能工学科1年)
- 上原麻理子 (農学部食料生産化学科1年)
- 竹尾久慧 (繊維学部創造工学系1年)

◎アドバイザー 森川英明 (繊維学部教授)

■成果

参加者の環境マインド育成に有益な体験となりました。今後、帰国後の報告会・広報誌(「信大NOW」)へのレポート掲載を通し、学生、教職員ほか一般に情報提供を行います。

■派遣の意義について

大学間の国際交流の定番は、教職員の相互訪問や研究協力、交換留学生の受け入れです。しかし、少なくとも学生の場合、留学となると相当の覚悟が必要です。地球規模の「環境問題」を体験的に理解する、学生同士が気軽に国際交流し、それぞれの問題意識や実践の指針を交換する場を提供することはできないだろうか？今回の学生派遣の企画はそうした発想から生まれました。代表となった4人の学生は、単なる観光客ではなく、環境先進国と言われるヨーロッパの実状を目の当たりにし、先方の学生との交流を深めて帰ってきました。報告によると、実践面で大きな差を実感したようです。今時いた種がすぐに芽を出すとは思いません。このような試みを定着させ、諸外国からも本学を訪問する学生を受け入れたり、web上で友人として討論したりすることができれば、次世代の国際理解は大きく進展するのではないかと期待しています。

(松本キャンパスISO実行統括責任者 福島和夫 理学部教授)



①リュネブルク大学で学生たちとのディスカッション ②車を共同利用するため、同じ行き先の人を見つけるためのボード ③市場(フライブルク市内) ④天然資源大学で研究室を回りながら水や繊維の研究について説明を受けた ⑤フライブルクで購入したBIO製品(原料は無農薬・自然農法で作られたもの) ⑥風力発電設備 ⑦美しい橋にも、太陽光発電パネルがさりげなく設置されている(ハンブルク市) ⑧ゴミ処理施設(収集車がゴミを降ろす、その上には鳥の糞として使える場所が設置されている) ⑨ホテルのデポジット機 ⑩リュネブルク大学

■学生の感想から

自分たちの環境は、自ら行動し変えていこう！



●上原麻理子さん(農学部)

スーパーで売っていた果物が大ききや味も不揃いで、買う方も気になかなか、日本と違ってとても大らかなものを感じました。日本だと形や味を揃えようと思いますが、そのためにエネルギーが使われており、環境への負荷があることに気づかされました。また、学生たちの行動には学ぶべきものがありました。



●後藤浩介さん(工学部)

ドイツは環境意識が高いのだろうと思っていましたが、特に高いわけではなさそうで、街にはゴミも落ちていました。でも、ピンはすべてデポジット制で、色別回収が行われるなど社会システムはしっかりしていたと思います。また、リュネブルク大学は、学生たちの運動により現在の環境大学になったのだと思いました。



●竹尾久慧さん(繊維学部)

リュネブルク大学では、カーシェアリングという、車で遠出する際に相乗りして車の数を減らすシステムや、学内のソーラーパネルを学生の寄付で設置するなど、学生たちの活動が盛んで刺激を受けました。私たちは、そのままのやり方をまねしようとするのではなく、信大に相應しいことで何かをやりたいと思います。



●森本竹洋さん(工学部)

ドイツの新幹線 ICE の車窓から、風力発電設備がたくさん見え、原発を風力発電にしていこう話など、クリーンエネルギー化が進んでいる印象を受けました。学生が、ソーラーパネルを自分たち寄付で設置してしまうなど、意識も行動もレベルが高いと思いました。またドイツの一般の人々の語学能力の高さを感じ、自分の語学能力に危機感を持ちました。